

メルボルンの中心部にある RMIT UP に認定留学していました。この街はビジネス、歴史的な建築物、アート、コーヒー、中華街などさまざまな文化や生活が混じっている場所です。日本人にとっては、ワーキングホリデー先として有名で、ジャパニーズレストランはもちろん、お寿司屋さんは至る所にあり、特にコーヒーが好きで、働きに来ている人たちがたくさんいました。また、日本の製品、例えばユニクロや無印良品、DAISO のようなお店があるため、生活する上で使い慣れた製品を簡単に手に入れられるのが住みやすいと思いました。天候は1日に四季があると言われるくらい気温差が激しかったため、日本人にとっては、体調を崩さないようにするためにしないとすぐに体調を崩してしまう人が多かったです。私は、中心街からは離れた住宅街でホームステイしていましたが、治安もよく、よく散歩に夜でも朝でもいけるほどでした。たくさんの人種が入り混じっているため、差別はなく、日本が好きな人が多かったため、日本人に対して好印象の方が多かったです。しかし、毎週のように市内ではデモが行われていました。コーヒー文化にも触れたいと思っていたので、たくさんのカフェに行きました。そこでは、老若男女問わずいろんな職種の方が自分の行きつけのお店をみつけて毎日そのお店に訪れていました。働いている方も働くことが好きで楽しんで働いている印象でした。

授業は、初めはレベル3のクラスからスタートしました。そのレベルは簡単な文法、例えば肯定文と否定文での動詞の変化や質問文の作り方(5WH)など、日本人にとっては中学校で習うような内容でした。1週間が終わり、簡単なテストをして、もし自分で授業内容が物足りなく、上のクラスに行きたい人は先生に申し出てほしいとあったので、私は申し出て、レベル4に移りました。レベル4で10週間過ごしました。このレベルでは、アクティブな授業が多く、教室の壁半面がホワイトボードになっているため、先生によって分けられたグループで意見を出し合いながら問題に答えていくものがあったり、テーブルごとでその日習った文法を使ったすごろくなどをしました。テストはカテゴリーによっていつ行われるかはバラバラでした。Speakingのテストはグループに分けられ、テストの当日はテストのために学校へ行き、先生2人と各自グループだけでお題について話し合いました。Speaking以外のテストはパソコンを使い、テストを受けました。テストが近づくとテストの練習をさせてもらったので、安心して挑むことができました。残りの5週間はレベル5で過ごしました。このレベルは毎週月曜日にお題が発表され、そのお題に関連する内容の授業を火曜日から木曜日にして、金曜日にはそのお題について自分の意見を発表し合い、話し合うtutorialがありました。この時間があるおかげで、国によって違う意見があったり、人によって違う意見があって面白かったです。また、質問をしたり、話を進めたりを英語で行うことで、自主的に英語をたくさん話す機会ができてよかったです。レベル5の時の先生は発音の練習を授業の初めにしたり、チームごとにホワイトボードに意見や文法の活用の問題を解いたりしました。総合的に見て、アクティブに生徒同士で話してす

る授業が多かったです。とても明るく楽しい先生が多く、すぐに打ち解けました。しかし、私が行った期間がちょうど日本の大学から集団で語学研修に来ている生徒が半分以上で、日本人が多かったのは残念なポイントでした。私が帰る頃にはその日本の生徒たちも帰国だったので、期間さえずらせば日本人はほぼおらず、中国や、台湾、ベトナム、サウジアラビアの生徒が大半でした。

生活はホームステイをしていて、家が中心街から離れていたのも、バスのみを使い街に出ていました。ご飯はステイ先で自由に冷蔵庫やパントリーを開けていいと言われていたので、夜ご飯だけ準備してもらい、それ以外は自分で用意して食べていました。ご飯にはお米も売っていて、日本のそばや、調味料もあるので、日本食が恋しくなることは少なかったです。授業が半日なので、あとの半日は建築物を見に行ったり、ギャラリーに行ったり、カフェやビーチ、公園、ショッピングをして過ごしました。公園やビーチで日光浴するのが日課でした。ビルが立ち並んでいるにも関わらず、無料で入れる植物園や公園がたくさんあり、自然をすぐに感じられたのでとてもよかったです。動物もたくさんの種類の鳥や、自然公園のほうに行くと、野生のカンガルーやコアラ、ペンギンに会うことが出来ました。私のホストファミリーは小さい姉妹がいて、その子たちのバースデーパーティーや学校行事に参加させてもらい、小さい子たちと遊んだり、親御さんたちと話したりとても英語の上達につながりました。ホリデーが間にあり、ウルルに行ったり、ホストファミリーの実家に連れて行ってもらい、田舎の生活を体験させてもらったりしました。ホストマザーが中国人で、第二言語が英語なため、彼女自身が英語を勉強していたのを生かして、私とよく話してくれて、私の間違いをただして話してくださり、次はもっと違う言葉使ってみようかと声をかけてくれたりして、安心して英語を使って話すことが出来ました。寮生活をしている子たちは、寮のイベントなどで外国の子たちと話すことで、話す機会を作っていましたが、ホームステイの方が半強制的に話さないと生活ができないので、英語を日常的に使っていききたい子にとっては絶好の機会だと思います。

留学を終えて、留学前は海外での生活はどんなものなのか、友達もない場所で生活できるのか、差別はないのかなど不安が多かったですが、留学後は世界中みんな同じ動物、人間で、人種ごとではなく、人それぞれに考え方や性格があるんだなと思いました。それによって、将来、海外で働いて生活してみたいという目標が元々は漠然とただ理想として思っていました。生きている間に絶対したいという気持ちになりました。努力したことは、家でいる時もあるだけ家族と一緒に過ごして、子供たちとゲームをしたり、お母さんお父さんと自分から話をしたり、積極的に話すようにしました。また、外国の生徒の子達とグループやペアになっても、拙い英語で伝わるように話して自ら指揮をとったりなど、とにかく話すことを頑張りました。留学をしてみて、間違っても英語を使うことは自分の英語力の向上にもつながり、世界中の人たちと友達や家族になれることがわかったことが1番のメリットでした。今回、留学に行く目的は海外での生活が自分にとってどんなものなのか、いろんな人種が入り混じっているオーストラリアで過ごすことでどんな出会

いがあるのかを知ることでした。結果的に海外で生活することは自分にとって、世界中の人たちと話してもっと広い世界を知るきっかけになることがわかったので、将来的に絶対しようと決めました。また、オーストラリア人だけでなく、アジアの他の国の子達や、タイ、ベトナム、サウジアラビア、コロンビアなどたくさんの国の子達と話せることができ、その国の生活や、習慣を知ることが出来て、日本でいるだけではわからないリアルな話を聞いて、たくさんを知ることが出来ました。少しでも海外に行ってみたい、留学してみたいと思う人に絶対に世界に飛び立つことをおすすめしたいと思いました。